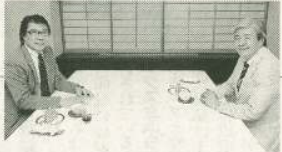


グッドクター 選ばれる歯科

(※特集企画①ページから)
から、インプラントにして固定してしまえば万事うまくいくかというとういうわけでもない。もちろん、インプラントがすばらしい効果を発揮する場合もあります。しかし、機能回復の手段であって万能ではありません。入れ歯でも、補綴の高度な知識と技能をもった歯科医師がうまく作れば、安い費用で患者さんを十分に満足させることができます。

田中 歯の喪失によって顔面に付着している支持組織がなくなると、顔貌は大きく変わります。優れた補綴・入れ歯治療もふくめ、歯科医とは、口の機能を回復させるだけのものでなく、審美的な側面も問われています。ですから、そうした面をも考慮して入れ歯がつくれる歯科医でなければなりません。インプラント治療をするにしても、きちんとした補綴の知識があることが望ましいと思います。



よい歯科医の見分け方
では、歯を失って困っている患者さんがよい歯科医を見分けるにはどうしたらよいのでしょうか。田中 日本補綴歯科学会では、かぶせ物、さし歯、ブリッジ、入れ歯に対する知識の豊富な歯科医を育成しようという専門医制度を設けています。で、一つの目安にはなるでしょう。入れ歯は臨床経験が多く、歯科技工に優れた施設、とりわけ専門的にやられている先生がよいでしょう。

古谷野 同じ歯科医でも、補綴を専門とする歯科医もいれば、口腔外科が専門で手術が得意とか、歯周病治療をおもに研究してきたとか、歯の根の治療を専門とする歯科医などバリエーションが様々です。そこをよく見極めることも大事です。田中 今は、どの歯科医もインプラントを一つの選択

健康寿命の伸長に貢献
田中 もう一つ、ぜひ触れておきたいのが、高齢者の健康と歯科医療です。認知症の方を調査すると、きちんと入れ歯を使っておられない方が多いと言われます。歯がないことは行動抑制に通じ、それがやがては認知症を引き起こすのではないかと推測されます。全身の健康のためにも、歯のメンテナンスを十分に心がけていただきたいと思います。古谷野 入れ歯をきちんと使って生活していると、転倒しにくくなるというデータもあります。現在、医療の目標は、自立して活動ができる健康寿命を延ばすことだと言われています。日本補綴歯科学会では、ここ数年、「咬合・咀嚼が創る健康長寿」というテーマで活動してきました。補綴治療がいくつになっても健康で人生を楽しまるために貢献できることは間違いありません。よい歯科医を選んで、健やかな毎日をお過ごしください。

お問い合わせ/線シーエム TEL.03-5835-2070

—特集企画⑥—

(シリーズ) 患者中心の求められる病院・クリニック

先 進 医 療 レ ポ ー ト



失った歯で悩む方へ

入れ歯の匠 (たくみ) 一挙紹介

選ばれる歯科

「よく噛めない」「痛い」など、失った歯の悩みや入れ歯に悩む人は多い。入れ歯とインプラントの治療の現状と課題、補綴歯科治療全般、そして補綴の歯科医の選び方について、日本補綴歯科学会の古谷野潔・理事長と田中久敏・元会長に聞く。



田中久敏
日本補綴歯科学会元会長、歯学博士
たなかひさとし 1961年九州歯科大学卒業。2004年青山通り歯科クリニックを開業。ハイオク立大大学院卒業。フジテレビ「歯の達人」出演。大学教授を歴任。日本補綴歯科学会元会長、日本補綴歯科学会常任理事、岩手医科大学名誉教授。

古谷野 潔
日本補綴歯科学会理事長
古谷野 潔 1955年福岡県生まれ。83年九州大学歯学部卒業。91年文部省共同研究員。アメリカ合衆国OHA, Vetter, Bruester, Pederson, 97年九州大学歯学部教授。2003年同大学歯学部附属病院長などを歴任。日本補綴歯科学会理事長。九州大学大学院歯学部口腔機能修復学講座インテグレーション歯科学分野教授。

よく噛める美しい入れ歯とインプラントの新事情 対談

歯科医療の現状について、どうご覧になっておられますか。古谷野 最近の傾向としては、若い人の虫歯が減って来ましたが、歯周病についても治療が進んでいます。しかし一方で、高齢者を中心に、歯を失って困っている方が増えているのも事実です。また、単に噛めればよいというだけでなく、見た目も美しくということでも、より審美性と機能性に優れた治療が望まれるようになって来っています。田中 歯周病の治療や虫歯の抑制など、40、50代までの歯科治療は成功していると思います。しかし、いったん治療が終わった後のメンテナンスがよくできていない。定年退職されたあたりの中がいたましい状態の方も多くなります。噛み合わせが崩壊してしまうと、義歯をつくるにしても大変難しくなります。そういった難症例が増えているように思います。入れ歯で悩んで

入れ歯治療とインプラント治療
田中 補綴治療というのは、ただ単に歯の代用物をそこにうめ込めばいいというものではなく、咀嚼(そしゃく)機能がそれが全身に及ぼす影響について熟知した上で、治療を行う必要があります。入れ歯が合わない(※特集企画⑥ページ続く)

—特集企画①—